

例文の暗唱を活用した語彙学習

ーペアワークを用いてー

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (外国語)

1 研究の背景と目的

多くの生徒が自分の思っていることを英語で表現することに苦手意識を持っている。「言いたい・書きたいと思っても、それを英語でうまく表現できない」「どう英語で表現するのかわからない」という生徒にとっては、言語材料が自分の表現として定着していない、あるいはそれをアウトプットとして表現する練習が不足しているものと思われる。新学習指導要領では「授業は英語で行うことを基本とする」と明記され、それは授業内で生徒が行う言語活動を、今後さらに工夫していく必要があることを意味している。

Ellis(1996)によると、言語学習のいかなる段階においても連続の習得が重要であると述べている。例えば、談話の学習は、語彙単位の連続、つまり句や連語の連続に関連している。そこで、ネイティブスピーカーのように話せるようになるためには、しばしば使用される馴染みのある連語を数多く内在化することが大切である。また、N. Schmitt & D. Schmitt (1995) は暗記のための方略として以下の原則を挙げている。

- ・ 単語を思い出す行為は学習者が後で再びその単語を思い出す可能性を高める。
- ・ 単語を習得するためには、その単語を繰り返し使用する必要がある。
- ・ 単語の繰り返し使用を効果的にするには「拡張リハーサル」が有効である。

以上のことを踏まえ、授業内に継続して文単位の暗唱を行い、それを用いたアウトプット活動を授業内で行わせることで、基本的な文構造の理解が深まり、単語の運用能力が高まるのではないかと考えた。また、その活動をペアワーク主体で行うことで、生徒が能動的に言語材料を獲得していく姿勢が身に付き、授業中の姿勢にも良い影響が出るのではないかと考えた。

平成22年度は担当する第3学年 Writing の授業の中で、ターゲットセンテンスの暗唱指導という形でペアワークによる定着度合いの効果を検討した。また、平成23年度は英語 I および II の授業の中で、新出語彙を指導する際に簡単な例文の形で暗唱し、ペアワークを用いて実際にその語彙を運用する機会を設けることで、その語彙の定着に効果が現れるかを検証する。

2 研究仮説

2.1

新出語彙を指導する際に、ペアワークを用いた暗唱活動を取り入れることで、単語の習得に関して意欲的に取り組む姿勢が出てくるだろう。

2.2

新出語彙を例文の形で暗唱することで、その語を運用できるようになるだろう。

3 研究方法

3.1 先行研究調査, 文献研究

- ・ 語彙指導の理論的背景・語彙指導実践に関する先行研究調査

- ・語彙学習の実態についてのアンケート（生徒および教員へのアンケート）

3.2 授業実践

- ・ペアワークによる暗唱活動を用いたターゲットセンテンスの獲得
- ・ペアワークによる暗唱活動を用いた語彙の習得および発展的活動

3.3 検証方法

3.3.1 単語テストによる語彙の定着度の測定

3.3.2 内容確認テストによる語彙の運用力の測定

3.3.3 アンケートによる語彙学習への意識の変化

4 研究計画

4.1 対象生徒

平成 22 年度 3 年生 2 クラス 79 名

平成 23 年度 1 年生 2 クラス 82 名

4.2 指導科目

平成 22 年度は英語 Writing（教科書）Genius English Writing Revised(大修館)

平成 23 年度は英語 I（教科書）Prominence English I(東京書籍)

4.3 指導計画

平成 22 年 6 月から 9 月

- ・先行研究調査，文献研究
- ・生徒・教員へのアンケート（語彙学習の実態）

平成 22 年 10 月から平成 23 年 3 月

- ・授業実践① ペアワークを用いた暗唱活動によるターゲットセンテンスの獲得

平成 23 年 4 月から平成 23 年 11 月

- ・授業実践② ペアワークを用いた新出語彙指導
- ・生徒へのアンケート（語彙学習に取り組む意識の変化）

5 研究実践

5.1 授業実践① 単文の暗唱を用いたペアワーク活動

Genius English Writing Revised(大修館)の各レッスンにはそれぞれ Study Points として各課ごとに 10 文程度の例文がある。そこにあげられている例文は暗唱活動に適した長さである。これらの英文を授業時間内に自分の表現として定着させることができれば、文法知識を内在化させる再構築の機会になるのではないだろうかと考えた。新学習指導要領では「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。」ことを目標とし、言語活動を効果的に行うために「適切な言語活動を英語で行う」ことを基本としている。このことを踏まえ、「話す」、「書く」の技能を関連させ、生徒の活動を中心としたコミュニカティブなタスクを絡ませた授業を展開した。

5.1.1 第 1 段階

Study Points の例文のうちのいくつかを用いて、隣同士でペアを作り、一人がハンドアウト
英 - 2 - 2

を見ながら日本語をチャンクごとに読み上げる。もう一人はプリントやテキストは見ずに相手の目を見ながら英語で答える。日本語の例文は2種類示してあるので、相手の状況を見てできるだけ長いまとまりにも挑戦させる。1文ごとに交代する。

ハンドアウトの例 Lesson20 比較（1）より

1. Light travels faster than sound.	光は進む／音よりも速く 光は音より速い。
2. Joe looks older than he really is.	ジョーは見える／実際よりも年をとって ジョーは歳より老けて見えます。
3. John likes Star Wars better than any other movie.	ジョンはスターウォーズが好き／他のどの映画よりも ジョンはどの映画よりも『スターウォーズ』が好きです。
4. Pablo Picasso is regarded as one of the greatest artists in the world.	パブロ・ピカソは見なされている／偉大な芸術家の一人として／世界で パブロ・ピカソは世界で最も偉大な芸術家の一人だと考えられています。

5.1.2 第2段階

第1段階で暗唱した英文の内容について一人がハンドアウトを見ながら疑問文を質問する。もう一人はペアの質問をよく聞いて、暗唱した英文を答える。1文ごとに交代する。第1段階で暗唱した例文を、聞かれている質問の答えになるように注意しながら再生させるのが狙いである。第1段階ではただの暗記だったものが、この段階では頭の中に思い浮かぶ概念を作って、伝えたいことを作文させるという形式に発展させる。

ハンドアウトの質問例 Lesson20 比較（1）より

Study Points 補足質問
1. How does light travel?
2. How does Joe look?
3. What does John like?
4. What is Pablo Picasso regarded as?

質問は自力で作らせるのが理想だが、生徒のレベルによってはなかなかそうもいかないのが、ハンドアウトに印刷しておき、それを活用してもよいと伝えてある。また、場合によっては、教師から英語で全体に質問をし、各自が声に出さずに頭の中で答える（暗唱した文を繰り返す）こともある。同じ文について何種類かの質問をすることで、質問の答えに当たる部分のチャンクに意識を向けさせるのが狙いである。

5.1.3 評価 定着度の測定

授業の終わりには、そのレッスンで暗唱した英文の定着を確認するために小テストを行い、その時間内に短期記憶としてどの程度保持されたのかを確認した。また、次の授業のはじめに

も小テストを行い、短期記憶から長期記憶として保持されたかどうかを確認した。

表1 小テスト平均点の推移

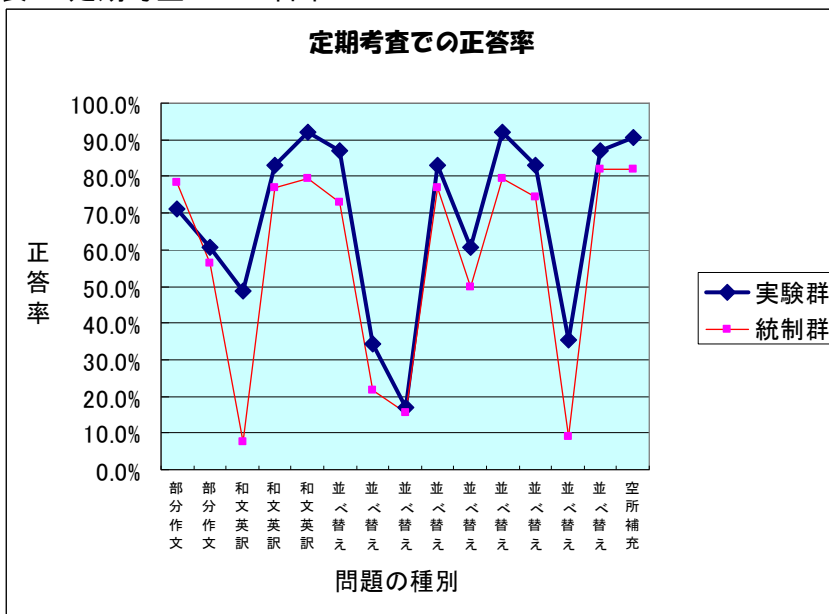
※点数は全て5点満点に換算した数値

Lesson	Unit1-19	Unit1-20	Unit1-21	Unit1-22	Unit1-23	Unit1-24
授業後	3.9	3.5	4.0	3.8	3.8	3.6
次回授業時	3.2	2.7	3.9	3.2	3.5	3.3
定期考査後	2.5	2.3	3.4	2.9	3.0	3.0

2単位の授業であるため、行事などの関係で次回の授業まで一週間以上空いてしまうことがあったため、均質なデータとは言い難い側面がある。平常日課が続き、2～3日の間隔で小テストを実施できたときには、点数の落ち込みはあまり見られなかったと言えるが、小テストの実施方法およびスペルミスの取り扱いに改善の工夫が必要であると感じた。

次に、暗唱練習を行ったクラスとそうでないクラスでは、定期考査での正答率にどのような違いが見られたかを調査した。以下のグラフは平成22年10月に実施した第3回考査における正答率の比較である。暗唱練習を行った文がそのまま出題されたものと、その文構造によく似た文が出題されたものを15問選び、統制群として学年の他の授業担当者に協力を仰ぎ、学年全生徒の正答率を算出して比較を行った。結果としては、実験群の正答率が全体的に統制群を上回っているということが言える。中には統制群において10%程度しか正解がなかった設問に対して実験群の50%近い生徒が正解した問題もあった。

表2 定期考査での正答率



5.2 授業実践② ペアワークを用いた新出語彙指導

5.2.1 ペアワークにより新出語彙を含んだ文またはフレーズを暗唱する活動

平成23年度は第1学年の英語Iを2クラス担当している。今年度は他の担当者の協力を得

て、オリジナルのワークシートを共有している。毎回必ず教科書本文が印刷されており、新出語句を含むチャンクあるいは文全体に下線を引いておき、生徒には予習の際に辞書等を用いて下線部分の意味を調べておくように指示している。

授業の始めに約5分程度で下線部分の意味の確認を行う。その後、発音の確認のため、下線部単位で教師のあとに続いてリピートさせる。

ワークシートの例 (Lesson 1 Part 2 より)

Lesson 1 High School Life around the World part 2	
1年()組()番 ()	
教科書本文(P8)を読み、辞書等を用いながら下線部分を日本語に訳してみよう。	
As <u>Salamu Alaykum!</u> I'm <u>Rima</u> from <u>Syria</u> . <u>Only a few girls go on to senior high school</u> after finishing junior high. Most girls stay home and <u>help around the house</u> .	
In high school, both boys and girls <u>wear jackets and pants as school uniforms</u> . Also, many girls in high school <u>wear scarves around their heads</u> . At school, we have <u>a religion class</u> . We have no school on Fridays because it's a special day for us. <u>After praying</u> , we have fun with our family and friends, and then we pray again. A few years ago <u>we started having Saturdays off</u> , too.	

意味および発音の確認が終わったら、授業実践①で用いたものと同様のペアワーク用ハンドアウトを配布する。ハンドアウトには、下線部分のうちから4～5ヶ所を選び、左側にその下線部分を含んだ文あるいは意味上のまとまりが英語で書かれている。右側には対訳が書かれており、半分に折ってペア活動に用いるようになっている。隣同士でペアを作り、一人がハンドアウトを見ながら日本語をチャンクごとに読み上げる。もう一人はプリントやテキストは見ずに相手の目を見ながら英語で答える。活動に当てる時間はおよそ5～7分。何も見ずに日本語を聞いただけで全て言えるようになるのを目標にさせる。

ハンドアウトの例 (Lesson 1 Part 2 より)

<p>1 Only a few girls go on to senior high school after finishing junior high.</p> <p>2 Both boys and girls wear jackets and pants as school uniforms.</p> <p>3 wear scarves around their heads.</p> <p>4 we have a religion class.</p> <p>5 we started having Saturdays off.</p>	<p>1 ごくわずかの女の子が／進学する／高校に／卒業した後で／中学を／ 中学を卒業した後高校に進学する女の子はごくわずかです。</p> <p>2 男の子も女の子も／上着とズボンを着用する／制服として 男の子も女の子も制服として上着とズボンを着用します。</p> <p>3 スカーフを頭に巻く</p> <p>4 宗教の授業があります。</p> <p>5 私たちは始めました／土曜日を休みにすることを 私たちは土曜日を休みにし始めました</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> Part 2-Lesson 1 for pair work. </div>	

5.2.2 新出語彙のスペルを確認する活動

前述のペアワークでは、学習者にとっては新出語彙を音でしかインプットできない。そこで、スペルの確認をどこかの段階で行わせる必要が出てくる。書き取り練習を行うことも一案として考えられるが、この研究では授業内でどれだけ工夫して「楽しく」単語を覚えられるかという観点から、次のような取り組みを行っている。

本文の内容確認のためのTFクイズや英問英答などを行う際に、該当する新出語彙が出てくるたびに、“Look up, and spell the word ‘〜’ with your finger.”などと指示を出し、何も見ずに目の前に指を出して空中にその単語を書かせる。あるいは“Check the spelling with your partner.”と指示を出し、隣同士でスペルを確認させることもある。授業の流れを壊さずに、できるだけ自然な形でこの指示を挟むのに神経を遣うが、こうした指示を授業の合間に挟むことにより、生徒の頭の中でスペルを確認する作業を繰り返し行うことが、語彙の定着に繋がると考えられる。

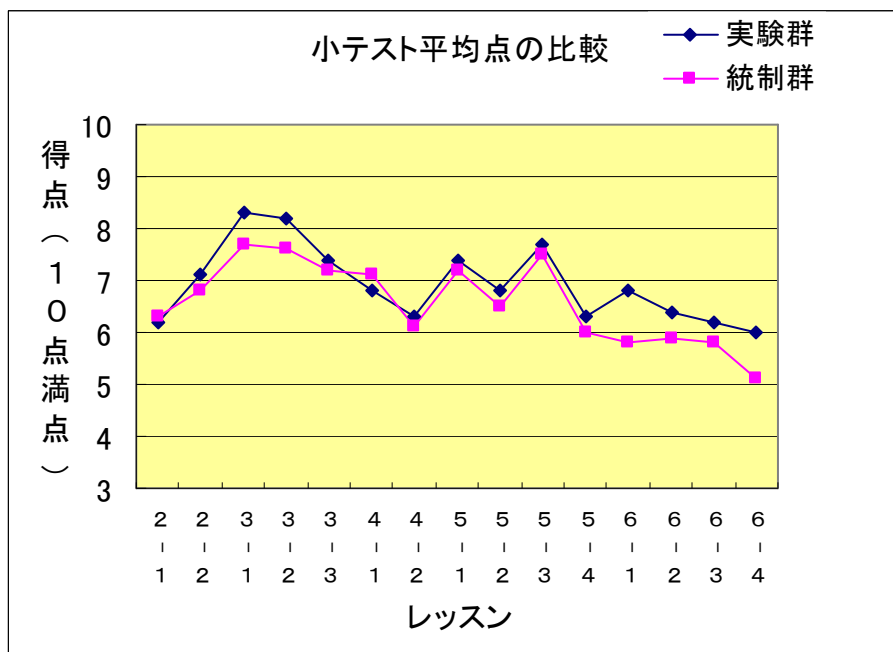
5.2.3 小テストによる定着度の測定

各パートの終わりに、そのパートで暗唱したフレーズに含まれている新出語句の定着を確認するために小テストを行った。テストの形式はそのパートに出てくる新出語句を書かせたり、意味を答えさせたりするものである。スペルミスは不正解とし、状況に応じて単数・複数や時制における語形変化は正解とした。例えば以下の例で **having Sundays off** と答えるべきところは、**have ~ off** という表現を確認しているので **Sundays** の **s** が抜けていても正解とした。ただし **only a few students** においては **a few** のあとに続く名詞は複数形でなければならないので **only a few student** という解答は不正解とした。なお、ペアワークを行ったクラスを実験群とし、ペアワークを行わなかったクラスを統制群とした。

確認テストの例 (Lesson 1 Part 2 より)

次の英語は日本語に、日本語は英語にしなさい。↵		Part 2 - Lesson 1 1st quiz ↵
(1) 年上の、年長の	(senior) ↵	
(2) ジャケット、上着	(jacket) ↵	
(3) スボン	(pants) ↵	
(4) scarf の複数形	(scarves) ↵	
(5) religion	(宗教) ↵	
(6) pray	(祈る) ↵	
(7) ごくわずかの生徒たち	(only a few students) ↵	
(8) おとなも子どもも両方とも	(both) adults (and) children ↵	
(9) 日曜日を休みにし始めた	we started (having) (Sundays) (off) ↵	

表3 小テスト平均点のグラフ ※点数は全て10点満点に換算した数値。



実験群，統制群とも低い結果となっているレッスンについては，新出語彙のスペルの難易度によるものと思われる。全体的に実験群において統制群よりも高いテストスコアが得られた。

5.2.4 内容確認テストによる運用力の測定

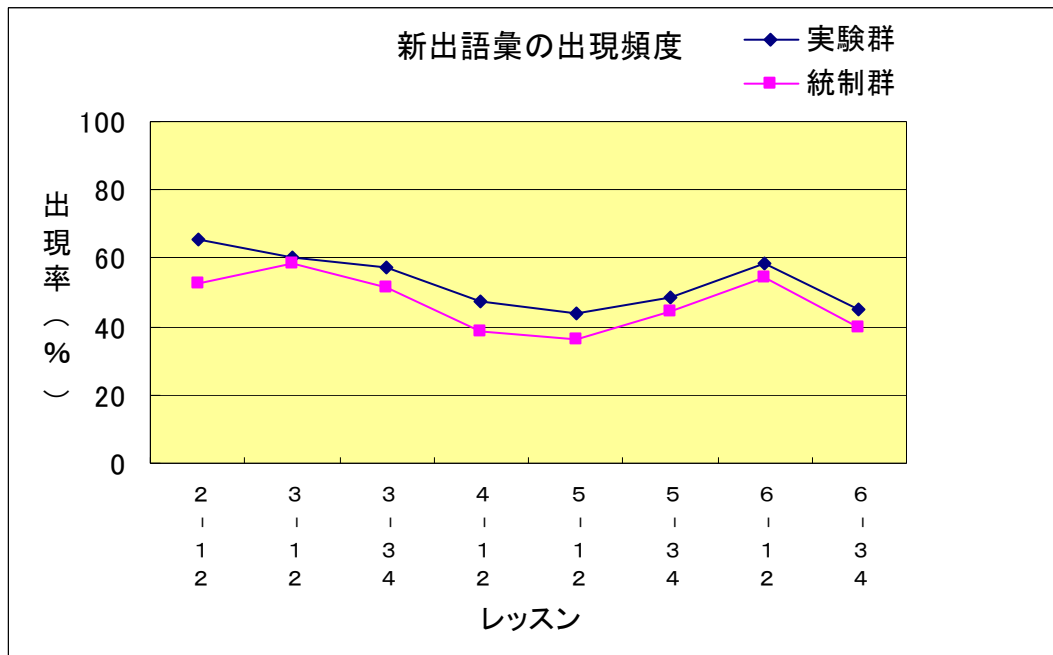
各レッスンが終わった後で，そのレッスンの内容理解を確かめる英問英答をプリントを配布して行った。生徒は教科書，ノートやプリント類は見ずに解答した。プリントは授業内には採点せずに回収し，解答に新出語彙が含まれているものを抽出し，出現頻度を確認した。

内容確認テストの例 (Lesson1Part1～2より)

<p>Q 1 What does the name of Ji' s country mean? It means "the Land of Freedom."</p> <p>Q 2 Why are people in Thailand proud of their country? Because other countries never ruled them.</p> <p>Q 3 What time does school start in Thailand? It starts at 7:30.</p> <p>Q 4 What do they learn in school? They learn not only languages and math but also dancing, boxing, or fruit carving.</p> <p>Q 5 What do most girls in Syria do after finishing Junior high? They stay home and help around the house.</p> <p>Q 6 What are school uniforms in Syria like? They wear jackets and pants and many girls wear scarves around their heads.</p> <p>Q 7 Why do people in Syria have no school on Fridays? Because Friday is a special day for them.</p> <p>Q 8 What did people in Syria start a few years ago? They started having Saturdays off.</p>	<p>Part1-2-Lesson1 for comprehension.</p>
---	---

模範解答のうち、四角で囲ってある語句がペアワークを行ったもの。このレッスンでは「freedom, rule, not only ~ but also ..., jacket, pants, scarf, have ~ off」の7つの新出語句が内容確認テストの模範解答の中に示されている。これらの語句がどのくらいの頻度で現れるかを調査した。語形変化については小テストと同様の扱いをし、明らかにスペルミスだとわかるような解答は正しく書けたものとして数えた。なお、これらの語を使用しなくても内容確認テストとしては正答になりうる表現も十分に考えられるため、テストの採点と単語の出現頻度のカウントは全く別物として考えている。生徒にはあくまでも内容が合っていれば正解としてフィードバックし、新出単語のカウントは別途行った。

表4 新出語彙の出現頻度



全体的に実験群において高いスコアが得られた。特に英問英答の解答がペアワークを行った例文と類似した文になる場合において実験群の方が新出語彙を使用する頻度が高かった。

6 質問紙調査による語彙学習に対する意識調査

6.1 ペアワークの有効性に関するアンケート結果及び考察

平成 22 年度に指導した 3 年生 2 クラスでアンケート調査を実施し、ペアワークに関するアンケート調査と語彙学習に対する意識調査を行った。

ペアワークに関するアンケート調査（平成 22 年 10 月実施）

質問内容

- 1 授業中の教師の英語使用量は十分だった。
- 2 授業中の生徒の英語使用量は十分だった。
- 3 授業中の教師－生徒の英語によるコミュニケーションは十分だった。
- 4 授業中の生徒－生徒の英語によるコミュニケーションは十分だった。
- 5 授業を終えたときに、授業に参加したと感じることが多かった。
- 6 授業を終えたときに、学習内容が十分身についたと感じることが多かった。
- 7 授業を終えたときに、授業時間があっという間に過ぎていったと感じたことが多かった。

回答(4. 大変そう思う 3. そう思う 2. あまりそう思わない 1. そう思わない)

表5 ペアワーク実施前

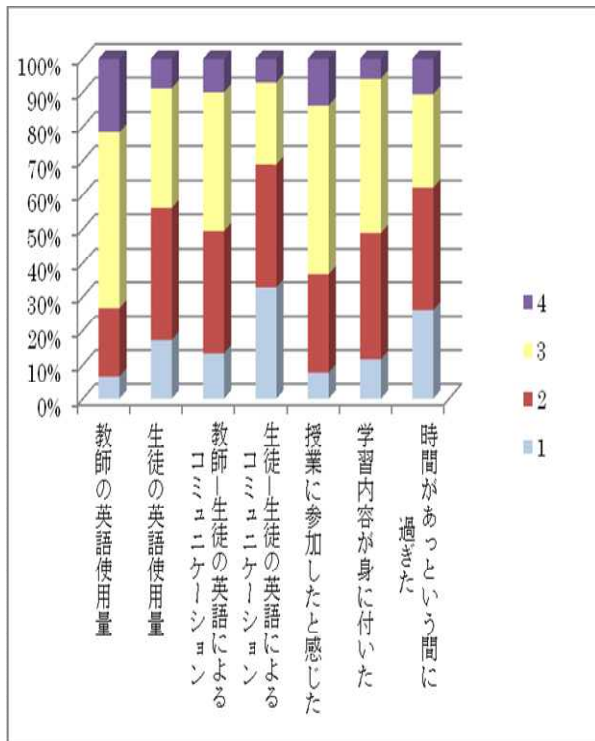
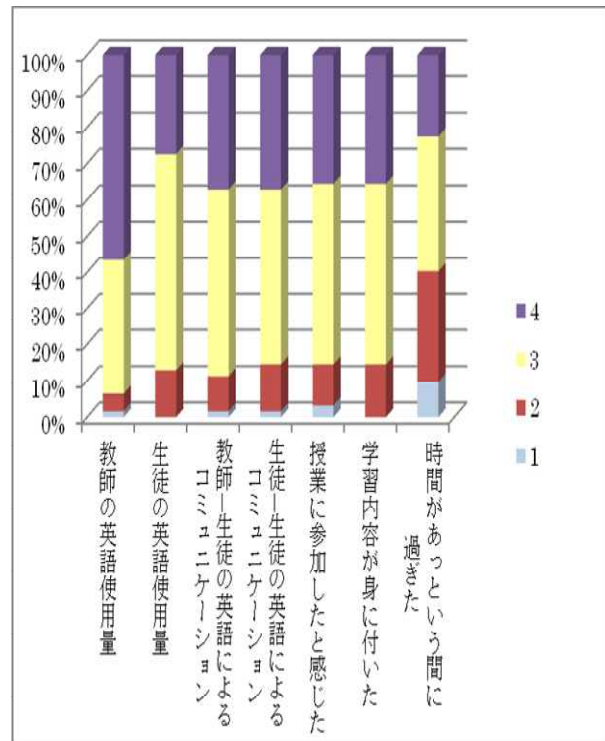


表6 ペアワーク実施後



ほぼ全ての質問項目で「大変そう思う」と「そう思う」の割合が 50%前後から 90%近くに上昇した。特に生徒自身が「英語を使った」「英語でコミュニケーションを取った」と感じ、その結果「授業に参加した」「学習内容が身についた」と実感することができたようである。また、ペア活動が主体の授業を展開することで「時間があっという間に過ぎた」と感じさせることができたようである。ペアワークを主体とし、実際に生徒が英語を使う時間を多く設定した授業を通して、ほぼ 90%近い生徒が英語を使用して授業に参加し、学習内容が身についたと実感することができたことを示している。このことから、ペアワークを主体とする活動は有効だと言える。

6.2 語彙学習に関する意識調査の結果及び考察

平成 22 年度の 3 年生に、今までどのような形態で語彙学習を行ってきたかをアンケート調査した。

表 7 語彙学習に関するアンケート調査（平成 22 年 10 月実施）

	そう思う	どちらかといえは思う	どちらかといえは思わない	そう思わない
英語の勉強は好き。	33%	36%	27%	7%
単語学習は好き。	15%	31%	42%	12%
単語学習は必要だと思う。	92%	6%	1%	1%

今までどのような形態で単語学習を行ってきましたか。（複数回答あり）

黙読のみ（16%）声に出して読む。（17%）書くのみ（62%）声に出して書く（21%）

今までどのような単位で単語学習を行ってきましたか。

単語のみ（81%）フレーズで（9%）例文を使って（5%）

このアンケート結果からわかるように、70%近くの生徒は英語の勉強に対して好意的ではあるが、半分以上の生徒は単語学習を苦手としている。しかしほぼ全ての生徒はその苦手な単語学習に必要感を感じている。単語学習は紙に書いて覚えることが多いが、それは単語のみの暗記にとどまっており、それを句単位、文単位で習得する練習が足りないようである。

6.3 ペアワークを用いた新出語彙の指導に関するアンケート結果及び考察

平成 23 年度に指導した 1 年生 2 クラスで、ペアワークを用いた語彙学習に対する意識調査を行った。

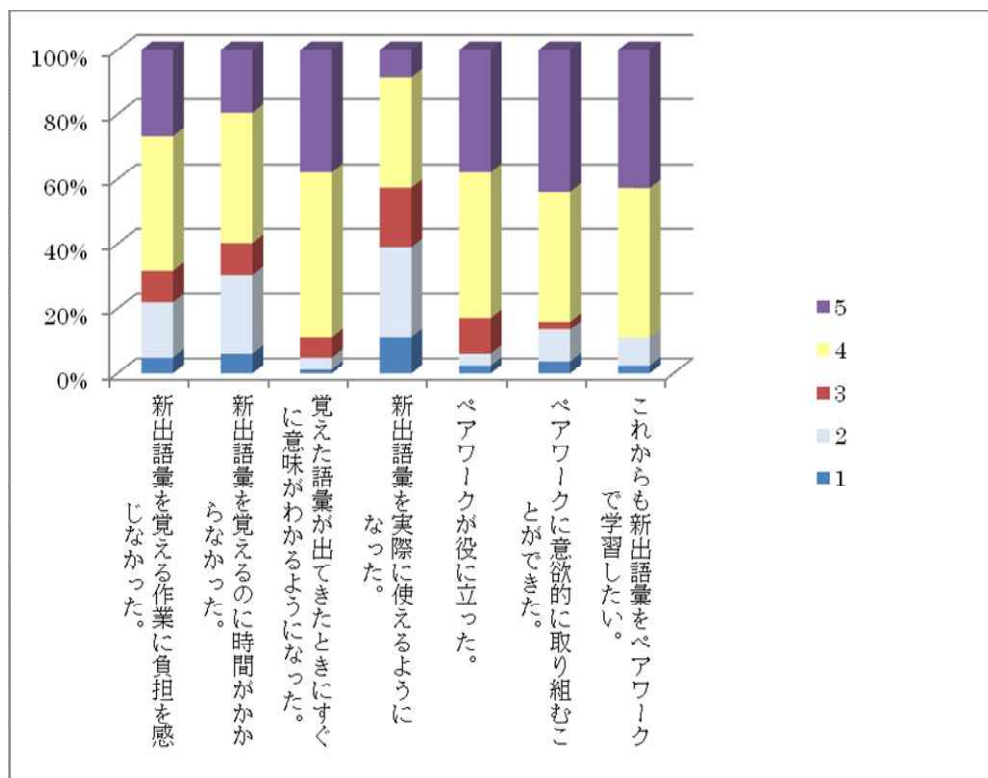
ペアワークに関するアンケート調査（平成 22 年 10 月実施）

質問内容

- 1 新出語彙を覚える作業に負担を感じなかった。
- 2 新出語彙を覚えるのに時間がかからなかった。
- 3 覚えた語彙が出てきたときにすぐに意味がわかるようになった。
- 4 新出語彙を実際に使えるようになった。
- 5 ペアワークが役に立った。
- 6 ペアワークに意欲的に取り組むことができた。
- 7 これからも新出語彙をペアワークで学習したい。

回答(5. 大変そう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない)

表8 ペアワークに関するアンケート調査



このアンケート結果からわかるように、平成 22 年度 3 年生と同様、授業内でのペアワークに関しては 80%以上の生徒が好意的にとらえている。また、60%~70%の生徒はあまり労力を感じずに新出語彙を覚えることができている。「実際に使えるようになった」と感じる生徒は全体の約半数以下であるが、インプットした語彙を実際に使わせる活動自体がまだ不足していたように思う。内容理解テストだけでなく、実際にその単語が表出されるような自由作文での仕掛けをもっと行わせ、生徒に実際にその単語を使う練習をさせる必要があると感じた。

7 結論

2年間にわたる授業実践とそれに基づく質問紙調査の結果から、授業内にペアワークを取り入れることで、生徒の英語使用量が増えるだけでなく、実際に生徒が授業に参加した、学習内容が身についたと感じさせることができ、そしてそのペアワークの内容を暗唱活動とすることによって、特定の文法項目や新出語彙の定着につながることを確認できた。さらに、ペアワークが、生徒にとっては負担となっている単語学習への苦手意識を拭い去り、語彙学習に対する意欲を生み出してくれたということができる。

本研究には課題も多く残された。ひとつはペアワークにかかる時間である。Writingのような授業ではペアワークをメインに1時間を組み立てることが可能であったが、英語 I のような授業においてはどうしても「本文の内容理解」をメインに授業を組み立てなければならない。ひとつのレッスンにおいてペアワークに費やす時間はせいぜい7分が限度である。そうすると新出語彙のうち扱うことのできるものはせいぜい4~5語に限られてくる。できるだけ文を短くしたり1文に2~3の新出語を混ぜたりして効率よく行ったつもりではあるが、どうしても

時数が足りずに検証テストを実施できなかったレッスンがいくつか出てしまった。ペアワークのやり方を示してしまえばあとは毎回の作業になるので、レッスンが進んでいくうちに生徒も効率よく動いてくれるようになったが、そうすると今度は新出語彙自体の難易度が上がっていったため、あまりシンプルな形で例文を提示できなくなってしまい苦労した。

生徒の言語活動に当てる時間をできるだけ確保し、できるだけ多くの時間英語を使わせることで、「英語の授業は英語で行う」授業を成立させることができればという考えから、ペアワークを取り入れた授業展開の工夫を重ねてきたが、授業内のどの場面でどのような活動を行うのがよいのか、今後も検証を重ねていきたい。

引用文献

Ellis, N.C. (1996). Sequencing in SLA: Phonological memory, chunking, and points of order.
Schmitt, N. & Schmitt, D. Vocabulary Notebooks: theoretical underpinnings and practical suggestions, ELT Notebook 49/2 April 1995

参考文献

大井恭子 (2002) 『「英語モード」でライティング』 講談社
大井恭子他 (2008) 『パラグラフ・ライティング指導入門』 大修館書店
高梨庸雄編著 (2005) 『英語の「授業力」を高めるために』 三省堂
竹蓋幸生 (1997) 『英語教育の科学』 アルク
田中武夫・田中知聡 (2009) 『英語教師のための発問テクニック』 大修館書店